

当院では以下の研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた過去の記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

コロナ後廃用症候群患者に対する吸引の有無と運動FIMが、在院日数や転帰先に与える影響

1. 研究の対象

2023年4月～2024年7月までに当院回復期病棟へCOVID-19後の廃用症候群で入院した方

2. 研究目的・方法

当院は急性期から維持期までの医療体制を有しています。2019年から現在までコロナ罹患後にADLが著しく低下した方、医療行為が必要となり退院できない方を中心に、回復期リハビリテーション病棟への入院を受け入れています。生活の質を担保するには生活の継続性を保ち、自立心が損なわれないような形で居住の安定を図る必要があると報告されています。病前と同様の居住環境への退院を目指すにあたり、吸引を主とした医療行為の有無が弊害となるケースは少なくありません。本研究は、入棟時や退院時の吸引の有無および入棟時の運動FIMが退院先や在院日数に影響を与えるのかを明らかにし、それらを把握することで、新たなリハビリテーションの目標やゴール設定の提案と、円滑な退院支援の一助となることを目的としております。

方法として、当院回復期病棟でコロナ後の廃用症候群としてリハビリテーションを行った方を対象とし、回復期病棟入棟時と退院時の吸引の有無、入棟時の運動FIMと在院日数や転帰先との関係性について統計解析を行います。

この研究は、2025年2月14日までを予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：入棟時・退院時の吸引の有無、入棟時の運動FIM、病前と転帰先の差の有無、回復期病棟在院日数

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

東京品川病院 東京都品川区東大井 6-3-22 03 - 3764 - 0511 (病院代表電話)

研究責任者：医療技術部 リハビリテーション科 畑山 陸

(2024年10月20日作成)